

学校自己評価の結果と考察

笑顔いっぱい

① 笑顔いっぱいの学級をつくります

② 笑顔いっぱいの児童会をつくります

③ 生活習慣の定着を図ります

④ 心をはぐくむ学校行事を展開します

元気いっぱい

① 体力の向上に努めます

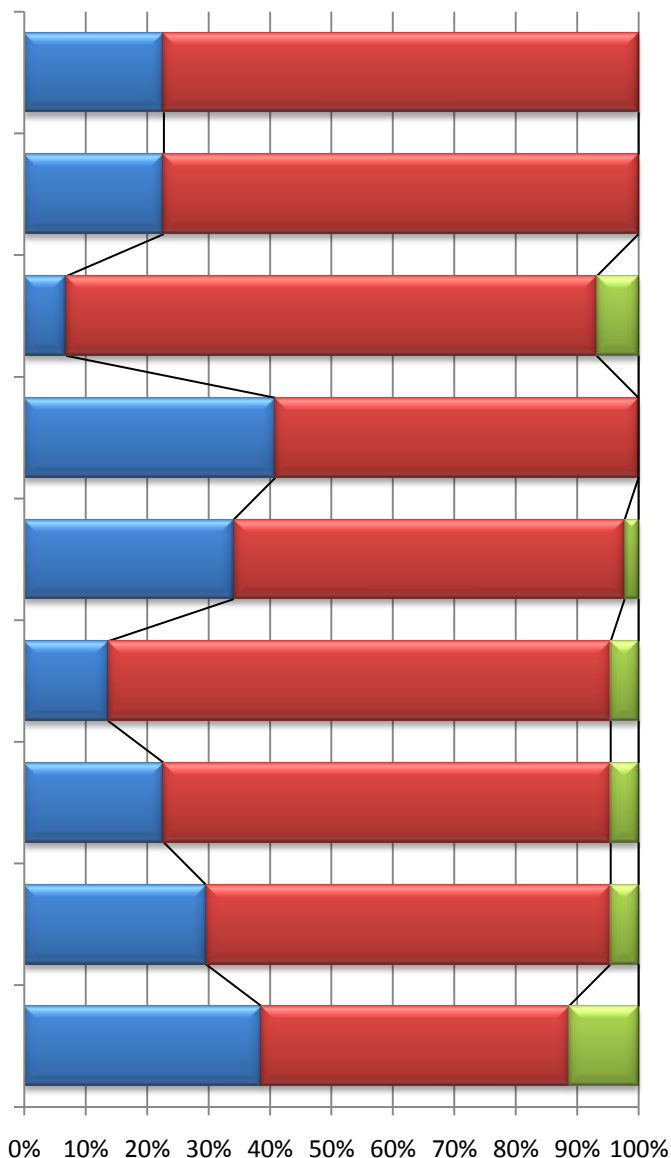
② 安全教育を展開します

③ 下校時の安全確保に努めます

勉強いっぱい

① 学力向上に努めます

② 本読みがいっぱいできるように努めます



■ A ; できている

■ B ; まあまあできている

■ C ; あまりできていない

■ D ; できていない

上のグラフは、教育目標を具現化する「桜花児童プラン」の達成度について、本校全教職員の評価結果を表したものである。重点努力事項のほとんどで「できている」「まあまあできている」の割合が90%を超え、教育目標を具現化するためのプランに沿って教育活動が営まれたことがうかがえる。一方で、今後の課題も浮かび上がる。特に、A評価の少なかった「生活習慣の定着」は、家庭との連携を図る具体策が必要であることが、本評価をもとにした協議で明らかになった。また、A評価とC評価に分かれた「読書習慣の形成」は、本を読む児童と読まない児童の2極化が進んでいることを分かった。そこで次年度は、読書活動の推進を強化することになった。

「桜花児童プラン」が、本校教育に有効に機能していることが協議の中で確認された。同プランの有効性は、保護者による評価結果からもうかがえる。よって、平成23年度は、今年度の「桜花児童プラン」に学校自己評価及び保護者による評価、さらに学校関係者評価の結果を反映させた「新」桜花児童プラン」を策定し、取り組むことによってさらなる教育効果が期待できると考える。